

令和6年4月5日
国土交通省関東地方整備局
荒川下流河川事務所

首都圏を災害から守り、安心して暮らせる荒川流域を目指して

～令和6年度 荒川下流河川事務所の事業概要～

令和6年度、荒川下流河川事務所の事業概要を紹介します。

荒川下流部の岩淵水門付近から東京湾河口にかけて人工的に開削された荒川放水路は、大正13年（1924年）に通水してから、今年、令和6年（2024年）で通水100周年を迎えます。これまで一度も決壊することなく、東京、埼玉の沿川都市の発展を支え、荒川下流部の貴重なオープンスペースとして地域に寄り添ってきました。

引き続き、首都圏を洪水から守るとともに、今後より一層の安心、安全の確保、豊かな自然環境や快適な利用環境の創出を目指すべく、事業を進めていきます。

この度、荒川下流河川事務所における令和6年度の事業概要をまとめましたので、御紹介します。詳しくは、次頁以降の事業概要資料を御覧下さい。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 都庁記者クラブ 神奈川建設記者会 川口市記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 荒川下流河川事務所

電話：03-3902-2311（代表） メールアドレス：ktr-arage-press@ki.mlit.go.jp

副所長（事業） 門屋 博行（かどや ひろゆき）

副所長（管理） 渡辺 健一（わたなべ けんいち）

総括地域防災調整官 鈴木 雅史（すずき まさし）

工務課長 河野 逸朗（こうの いつろう）

管理課長 菅野 学（すがの まなぶ）

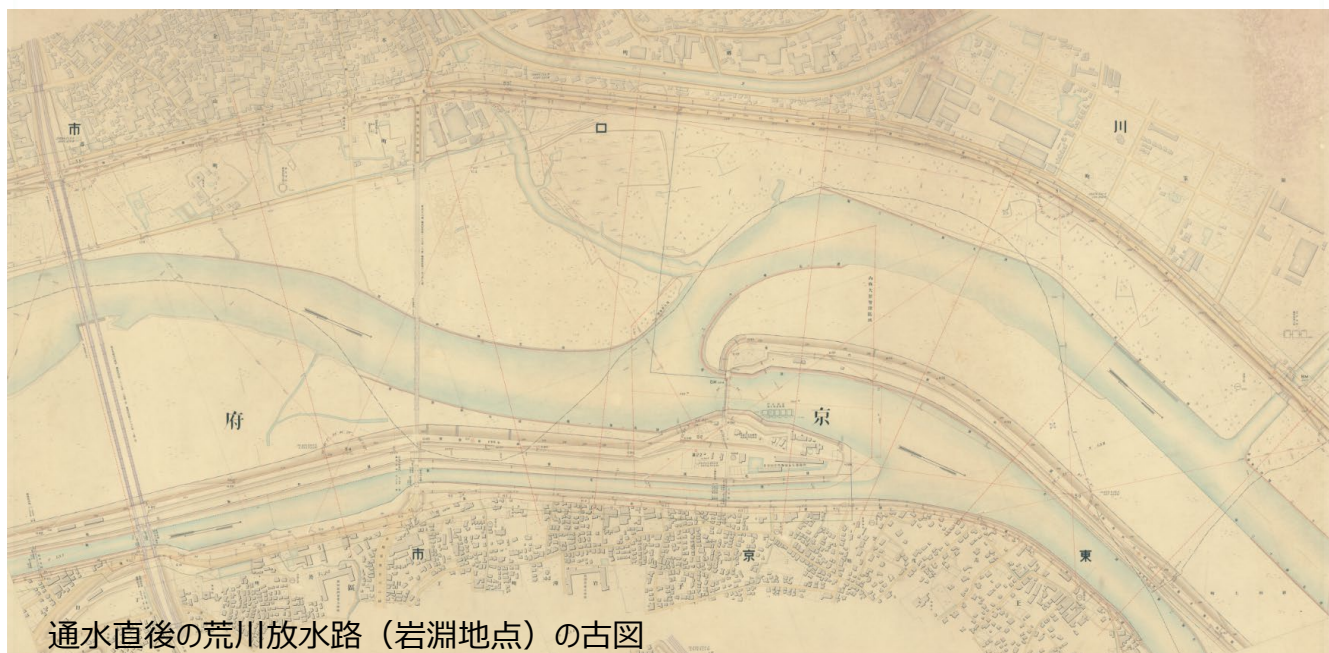
令和6年度 荒川下流河川事務所 予算総括表

(単位:百万円)

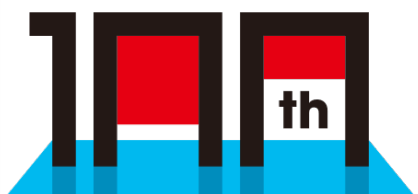
予算科目	令和6年度 事業費	前年度 事業費			対前年度比
	当初予算	当初予算	補正予算	計	当初予算比較
河川整備事業費	7,655	4,909	6,323	11,232	1.56
河川改修費	6,447	3,722	4,957	8,679	1.73
一般河川改修事業	989	1,357	904	2,261	0.73
流域治水整備事業	40	40	0	40	1.00
特定構造物改築事業	5,419	2,325	4,053	6,378	2.33
河川維持修繕費	1,208	1,187	1,314	2,501	1.02
河川工作物関連応急対策事業費	0	0	52	52	—
都市水環境整備事業費	1,563	2,296	2,122	4,418	0.68
河川都市基盤整備事業費	1,357	2,012	1,902	3,914	0.67
総合水系環境整備事業費	206	284	220	504	0.72
事業費計 (諸費等を除く)	9,217	7,205	8,445	15,650	1.28

※上記のほか、受託工事費、工事諸費等があります。
※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

2024年荒川放水路通水100周年 ～百年の想い 100年の未来～



通水直後の荒川放水路（岩淵地点）の古図



荒川放水路
通水100周年記念

令和6年度 事業概要



2024

荒川放水路は、
今年2024年10月12日で
通水100周年を迎えます。

荒川放水路事務所

これまで一度も決壊することなく、東京・埼玉の沿川都市の発展を支えてきた”荒川放水路”に感謝を表し、荒川下流河川事務所ではなく、「荒川放水路事務所」と記載しました。

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム

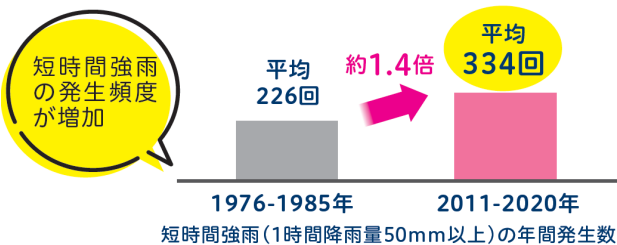


私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

災害に対する取り組み

激甚化する水災害への対策＜荒川水系流域治水プロジェクト＞

■相次ぐ自然災害はもはや「日常」



■気候変動に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化

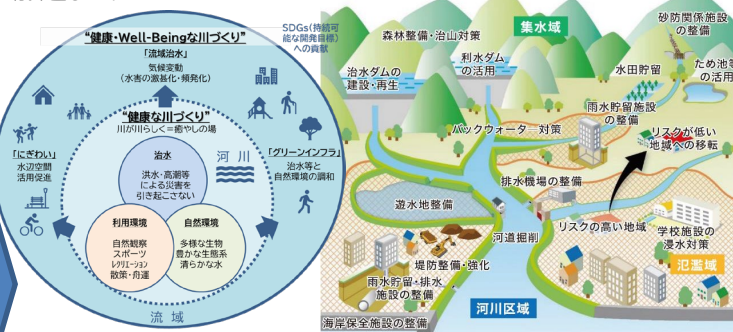
短時間強雨の発生や台風の大型化等、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられ、今後さらに気候変動による水災害の頻発化・激甚化が予測されています。

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

＜降雨量変化倍率をもとに算出した一級水系における全国平均値＞

■荒川水系流域治水プロジェクト

河川管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換するため、流域全体で早急を実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速します。



■荒川下流域 流域タイムライン



各取組の詳細は、以下から確認出来ます。

- 荒川水系流域治水プロジェクト
- 荒川下流域流域タイムライン
- 水害時の分散避難推進の手引き (R5.1公表)

次の100年も安全、安心な暮らしのために・首都直下地震の対策

■関東大震災

2023年は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災から、100年の節目でした。この100年間、荒川では災害により大きな被害は発生していませんが、次の100年間も安全、安心な暮らしのために、様々な対策を実施しています。



関東大震災後の護岸の状況

■首都直下地震

都心南部を震源とする首都直下の地震では、人的・物的被害や経済被害は甚大なものとなると予想されています。

荒川下流河川事務所の取り組み

■耐震対策

堤防・水門樋管等の耐震対策を実施し、江東デルタ地帯を抱える高潮区間の堤防耐震対策を進めています。

■荒川は水陸輸送ルート

河川敷に緊急用船着場や緊急用河川敷道路を整備し、災害時の輸送ネットワークの構築を進めています。



■荒川下流防災施設運用協議会

河川敷道路や船着場等を震災時に沿川自治体や警察、消防、自衛隊等が有効かつ円滑に利活用し、迅速な災害活動に資することを目的として平成23年度から連携を進めています。

墨田区・江東区・北区・板橋区・足立区
葛飾区・江戸川区・川口市・戸田市
東京都・警視庁・東京消防庁
埼玉県・埼玉県警察本部・陸上自衛隊

オブザーバ：荒川区・海上保安庁
東京都道・大宮国道
荒川上流



▶「荒川下流防災施設活用計画」をR5年9月に公表しました。

荒川沿川7区・東京23区の被害想定（冬の夕方、風速毎秒8m）			
1. 建物被害			
全壊棟数	一部全体の約52%	焼失棟数	一部全体の約39%
沿川7区	40,177	沿川7区	39,809
23区全体	77,031	23区全体	103,282
2. 人的被害			
死亡者数	一部全体の約46%	避難者数	一部全体の約47%
沿川7区	2,625	沿川7区	1,276,718
23区全体	5,722	23区全体	2,719,909
負傷者数	一部全体の約41%	帰宅困難者数	一部全体の約15%
沿川7区	34,665	沿川7区	532,109
23区全体	84,965	23区全体	3,675,733
3. 震災廃棄物			
沿川7区	1,239トン	一部全体の約43%	
23区全体	2,888トン		
4. ライフライン被害			
停電率	沿川7区 23.1%	通信不通率	沿川7区 6.7%
	23区全体 16.3%	上下水道断水率	沿川7区 46.4%
		下水道管きり破断率	沿川7区 6.0%
		ガス供給停止率	沿川7区 48.5%
			23区全体 5.4%
			31.2%

令和4年5月25日公表 東京都防災会議
「首都直下地震等による東京の被害想定」をもとに作成

流域のあらゆる関係者の協働による、ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」を推進します。

●令和6年度予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
●治水対策、危機管理に関する事業	7,804
●環境の保全に関する事業	206
●維持管理に関する事業	1,208

合計 9,218 (百万円)

※上記のほか、受託工事費、工事諸費等があります。

●令和5年度補正予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
●治水対策、危機管理に関する事業	6,859
●環境の保全に関する事業	220
●維持管理に関する事業	1,366

合計 8,445 (百万円)

凡例

- : 令和6年度予算
- : 令和5年度補正予算

各事業箇所の
ドローン映像はこちら



荒川下流管内区間

首都圏大規模水害から街を守る 危機管理対策

防災拠点整備

④⑤ 平井七丁目地区河川防災拠点整備

災害対応に必要な資材の備蓄ヤードを新たに造成し、災害復旧時の機能強化を図ります。

首都圏大規模水害から街を守る 治水対策

高台まちづくり

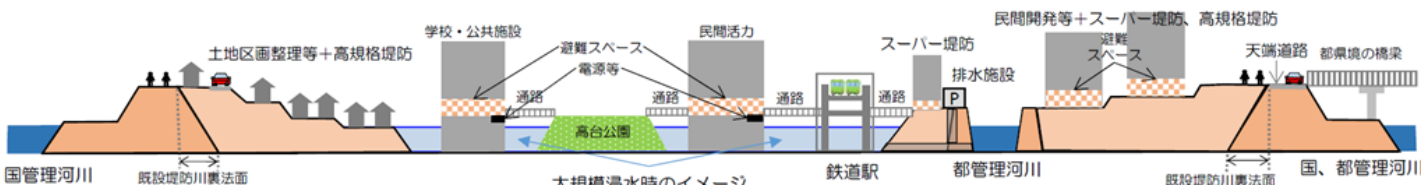


③③ 川口地区高規格堤防整備

④ 小台一丁目地区（Ⅱ期工区）高規格堤防整備

高規格堤防を整備し、その上面を活用した高台まちづくりを推進します。

国、都、地元区等が一体となり、避難のあり方や排水対策等を踏まえた高台まちづくりのあり方の検討や、モデル地区などの具体的な地域における高台まちづくりを支援します。



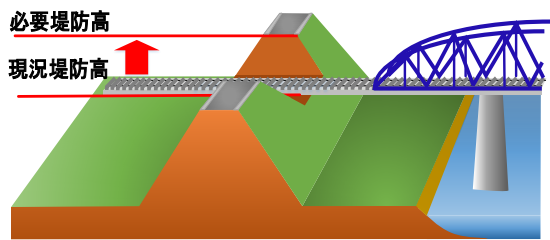
主要事業

首都圏大規模水害から街を守る治水対策

京成本線荒川橋梁架替事業

①①京成本線荒川橋梁架替

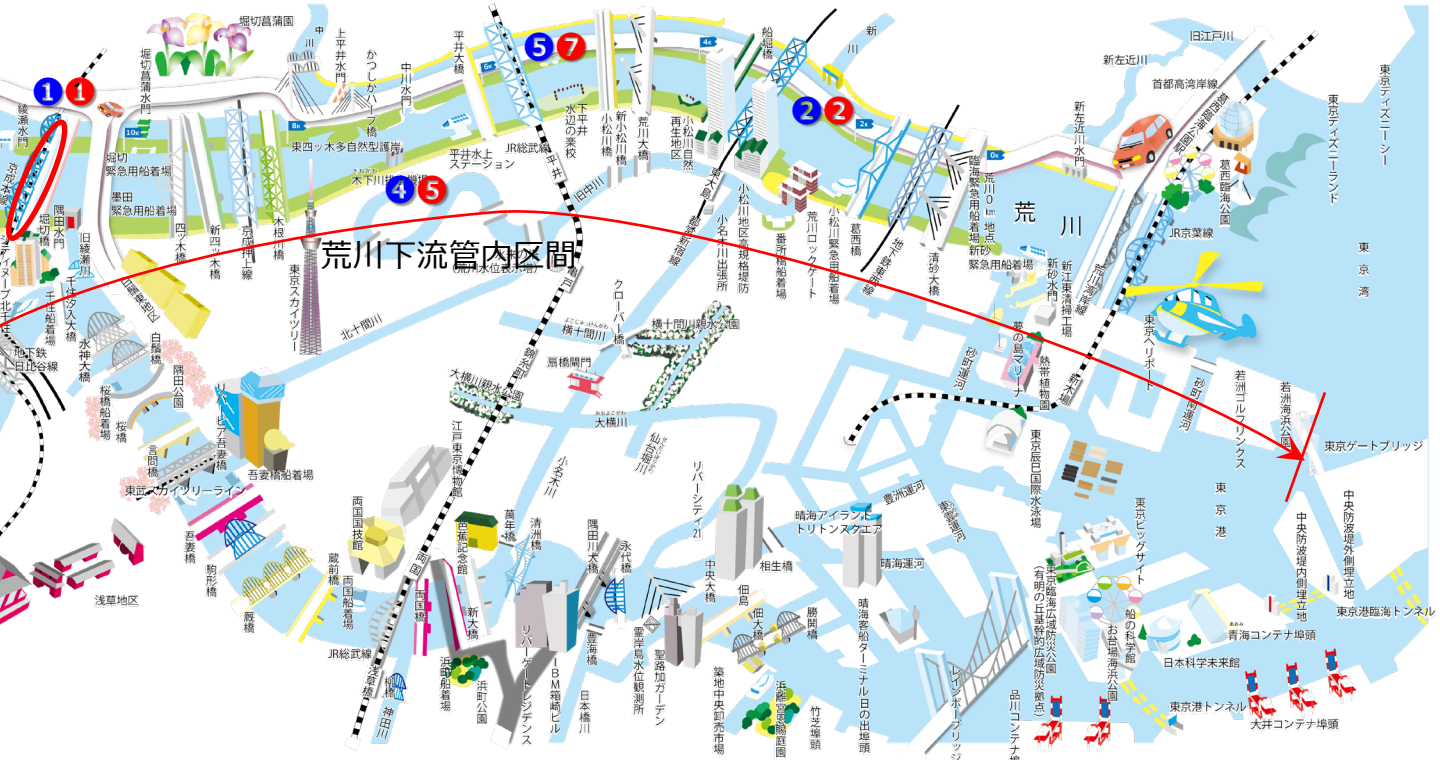
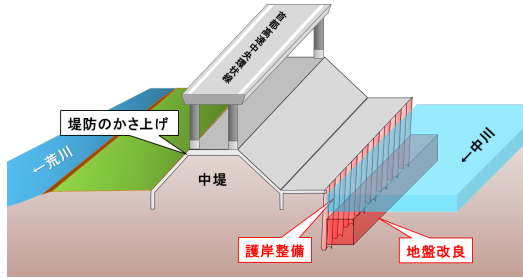
周辺の堤防高さに対して低い堤防をかさ上げるため、支障となっている橋梁を架替えます。



高潮対策

②②北葛西二丁目地区高潮対策

高潮堤防のかさ上げを行います。



地域や市民との連携の推進

かわまちづくり

⑥板橋区かわまちづくり

自治体、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。



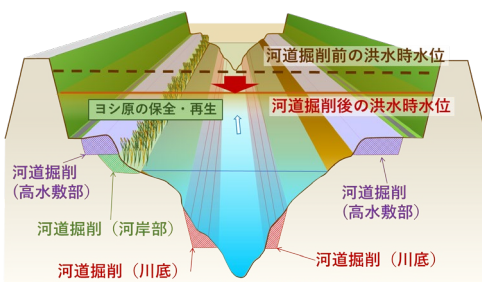
陸上競技場及び堤防天端をつなぐ連絡通路の整備イメージ

治水対策と良好な環境の保全の両立

河道掘削、ヨシ原や干潟の保全・再生

⑤⑦松島地区他高水敷掘削、小松川橋上流左岸地区河岸再生

河道掘削の形状を緩傾斜にすることで、洪水を安全に流下させるとともに、水際部から高水敷のつながりを確保し、ヨシ原や干潟の保全・再生を行っています。



河道掘削についてはコチラ



河岸再生についてはコチラ



主要事業

安全性を持続的に確保するための維持管理

■ 巡視や点検等を行い災害に備えるとともに、誰もが安心して利用できる荒川を目指して維持管理を行います。

(1) 治水機能を支える維持管理



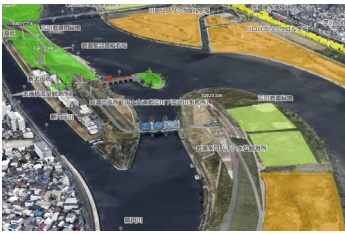
堤防点検、水門等の河川管理施設の保守・点検



堤防点検

河川巡視とともに、出水期の前などに職員が堤防を中心とした施設の状態を把握し、修繕等の対応をするため堤防点検を行っています。

デジタル河川管内図による維持管理検討



令和3年度に公開した荒川デジタル河川管内図（下流域）を活用した河川業務の効率化・高度化の検討を進めます。

(2) 安心・快適な河川利用の促進

荒川下流河川敷利用ルールの周知



令和4年7月荒川下流河川敷利用ルールを一部改定しました。周知啓発を図り、河川敷を誰もが安全で快適に利用出来る環境を目指します。



安全利用点検



安全利用点検

河川に人が集まるGW及び夏休み前に、河川空間を安心して利用していただくため、施設の点検を実施します。

主要事業

地域や市民との連携の推進



■ 社会情勢の変化や地域社会のニーズに的確に対応した河川の計画・整備・維持管理・利用等を行うため、地域と国、住民と行政とのパートナーシップを深めていきます。

荒川水辺サポーター



水辺サポーター（千住桜木地区）

企業や市民団体からなる「荒川水辺サポーター」と、「沿川自治体」、「荒川下流河川事務所」の3者が連携して協働で自然地の維持管理活動を実施しています。

荒川クリーンエイド



荒川クリーンエイド

市民やNPO、沿川の自治体などと協力し、自然豊かできれいな荒川を取り戻すため、ゴミ拾い活動を進めています。

水辺の賑わいの創造（ミズベリング）



第12回ミズベリング荒川下流会議

住民、企業、行政と連携し、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間をまちづくりと一体となって創出します。

水辺の楽校



北区・子どもの水辺

子供達の自然体験や環境学習を支援するため、地域の方々及び地元自治体と協力して河川空間の整備しています。

令和5年度荒川下流河川事務所 最新の取り組み

Topic1 通水100周年 ～百年の想い 100年の未来～



● 2024年は荒川放水路通水100周年の年です
令和5年5月25日に、沿川2市7区の首長、東京都建設局長、埼玉県県土整備部長、及び荒川下流河川事務所長で構成される荒川放水路通水100周年記念事業第1回実行委員会を開催し、100周年の「ロゴマーク」と「キャッチコピー」を決定、令和6年1月26日には第2回実行委員会を開催し、荒川放水路通水100周年行動宣言、実行委員会メンバーの記念撮影等を行いました。
企画展を始め、沿川首長等動画メッセージの上映、リーフレット、イベントカレンダー、るるぶ特別編集荒川放水路の作成など、関係機関と連携して広報活動を展開し、100周年記念の年に相応しい様々なイベントを企画して盛り上げていきます。

100周年行動宣言(要約・抜粋)

- (全 体)
1. 「流域治水」の取組に挑戦
(防災・減災、強靱化)
 2. 計画的・着実な治水施設の整備、老朽化対策を継続、避難計画、高台まちづくり等に挑戦
(水辺空間・自然環境)
 3. 魅力ある水辺整備、良好な自然環境の創出、水辺拠点づくり、拠点間ネットワークづくり等に挑戦
(危機管理)
 4. 関係機関による災害時連携協働体制の強化、円滑な防災・避難行動等の実現に向けた取組に挑戦
(地域間交流)
 5. 水の繋がりを通じた相互理解・相互応援の関係づくり、流域が一体となった地域づくりに挑戦

沿川市長	菅原文仁
沿川市長	奥・木信久
沿川市長	坂本 健
沿川市長	山田 加奈子
沿川市長	藤原 邦子
沿川市長	青木 克彦
沿川市長	山本 亨
沿川市長	青藤 隆
沿川市長	大久保 朋果
沿川市長	金子 聡
沿川市長	中島 南志
沿川市長	出口 桂樹



荒川放水路
通水100周年記念

ロゴマーク



イベントカレンダー



るるぶ荒川放水路



実行委員会記念撮影

Topic2 荒川DX (デジタルトランスフォーメーション) の取り組み



● 小名木川出張所DX始動

小名木川出張所では全国初の河川系DX出張所として、デジタル技術等を駆使して河川管理の高度化を図り、行政サービスの向上と働き方改革に挑戦しています。

① 河川巡視、状況把握におけるリアルタイム映像伝送・トラッキング

河川巡視等で現地リアルタイム映像を伝送することにより、関係者の情報共有が円滑に行われ、点検作業の迅速化、精度向上とともに、対応時間が短縮しました。この取り組みは、第7回インフラメンテナンス大賞の優秀賞を受賞しました。



小名木川出張所

現地・出張所・事務所と関係者みんなで意思疎通が可能



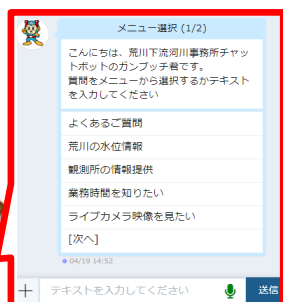
ウェアラブルカメラの導入

② 電話応答の削減を目指した『チャットボット』導入

ホームページ上にチャットボットを開発し、1アクションで必要な情報を24時間提供可能にしました。



チャットボットの導入



Topic3 荒川将来像計画 (全体構想書・推進計画) の改定



令和6年1月26日(金)に、第38回荒川の将来を考える協議会を開催し、荒川将来像計画(全体構想書・推進計画)の改定案が承認されました。
これからも荒川下流部をより魅力的な川とするために、また、「荒川」と荒川に関わる「まち」と「ひと」が共に健康・Well-Being (ウェルビーイング) な状態へ変容していくことを目指していきます。

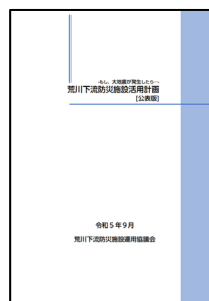


全体構想書 (改定)

Topic4 荒川下流防災施設活用計画の公表



令和5年9月に、沿川自治体と警察・消防・陸上自衛隊・海上保安庁等と河川管理者が協働して策定した震災時の河川防災施設の活用計画を公表しました。
平時・災害時の河川防災施設及び高水敷の活用について沿川住民や自治会に広く周知し、今後起こりうる大規模震災への備えをおこなっていきます。

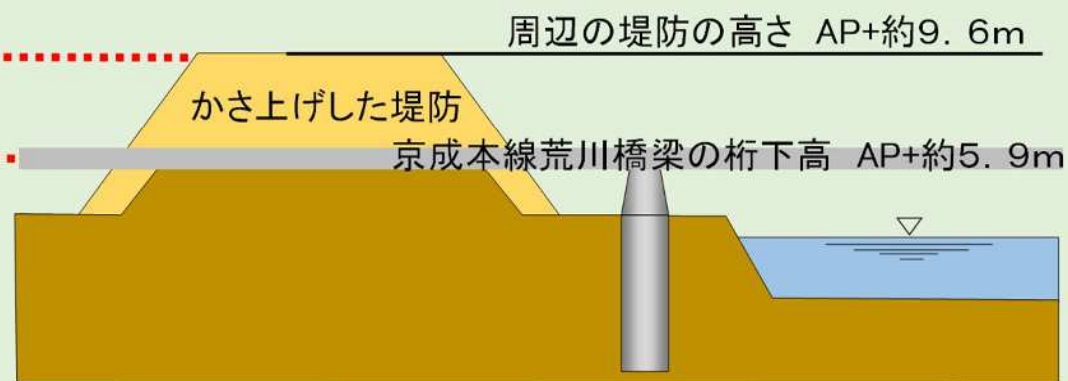


荒川下流防災施設活用計画

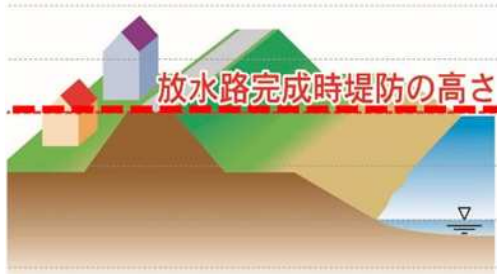
京成本線荒川橋梁

- 京成本線荒川橋梁は、荒川放水路の開削工事の際に架設されました。その後、広域的な地盤沈下が発生したため、対策として堤防のかさ上げを行いました。橋梁及び周辺の堤防の高さは低いままとなっています。
- 現在、橋梁の桁下高は周辺の堤防の高さに対して約3.7m低く危険な状態となっています。
- 事業の目的は、洪水を安全に流下させるために堤防をかさ上げすることで、堤防のかさ上げに支障な京成本線荒川橋梁及び綾瀬川橋梁の架替工事を行うものです。

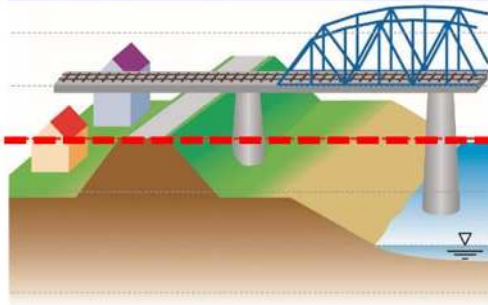
京成本線荒川橋梁の桁下高は 周辺の堤防の高さに対して約3.7m低い



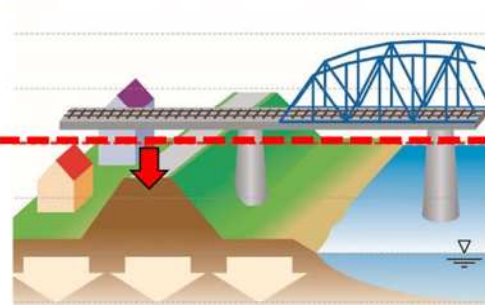
荒川放水路完成
(昭和5年)



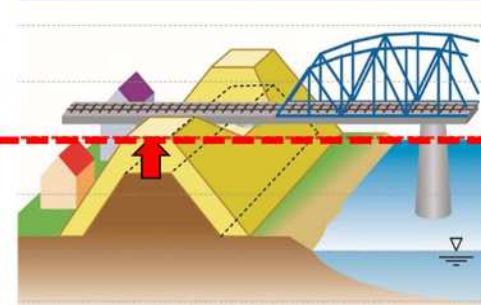
京成本線荒川橋梁完成
(昭和6年)



地盤沈下
(高度経済成長期)

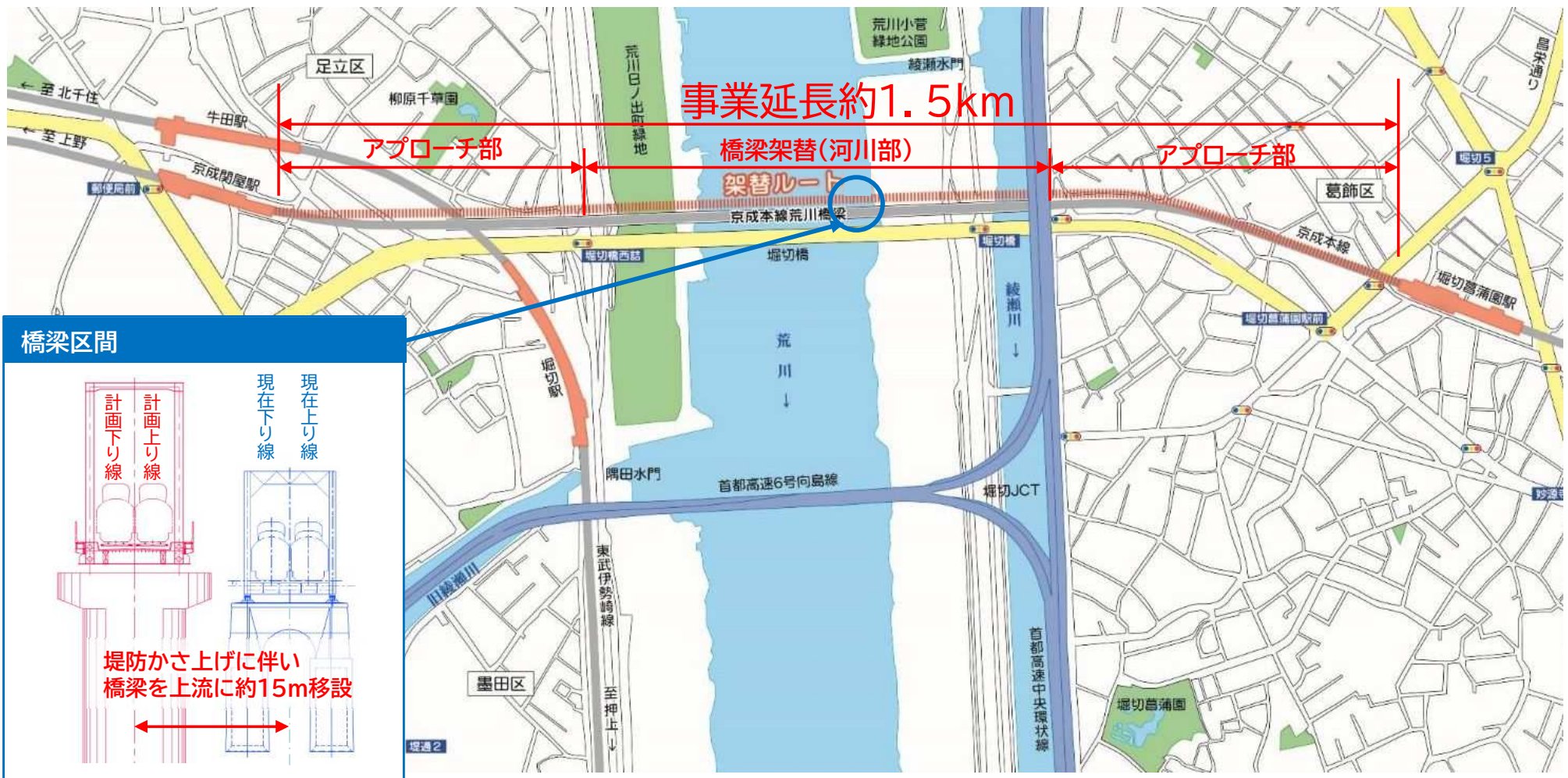


堤防かさ上げ実施



京成本線荒川橋梁 架替事業の概要

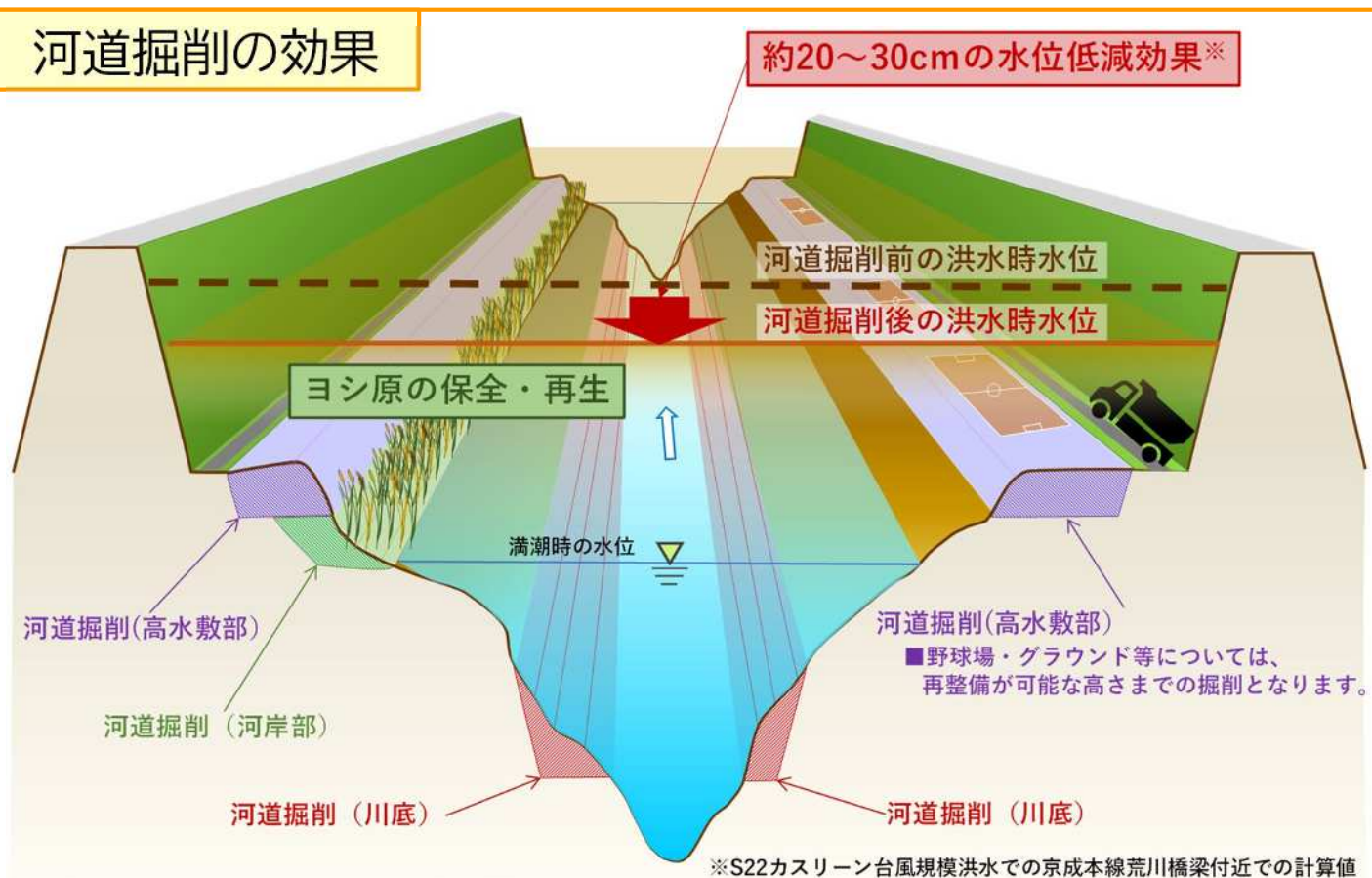
- 橋梁の高さが低く、洪水の安全な流下の阻害となっている京成本線荒川橋梁を約15m上流に架替えます。
 - 新橋に切替えた後、現橋の橋台を撤去し、周辺の堤防の高さに比べ低い堤防のかさ上げ・拡幅を行います。
 - 新橋への架替えに伴い、京成関屋駅から堀切菖蒲園駅までのアプローチ部の改良も行います。
 - 令和4年度から京成本線荒川橋梁の架替工事に着手し、令和19年度に事業は完了する予定です。
- 総事業費は約730億円です。



河道掘削 ～河川改修×自然再生～

- 河川整備計画の目標である昭和22年カスリーン台風と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道掘削により京成本線荒川橋梁付近で約20～30cmの水位を低下させるとともに、その他の治水対策を併せて実施。
- 河岸部の河道掘削にあたっては、満潮時に冠水する程度の高さに整備し、荒川下流部にかつて存在していた多様性のある湿地環境の再生を目指します。

河道掘削の効果



ヨシ原・干潟などの 湿地環境のイメージ

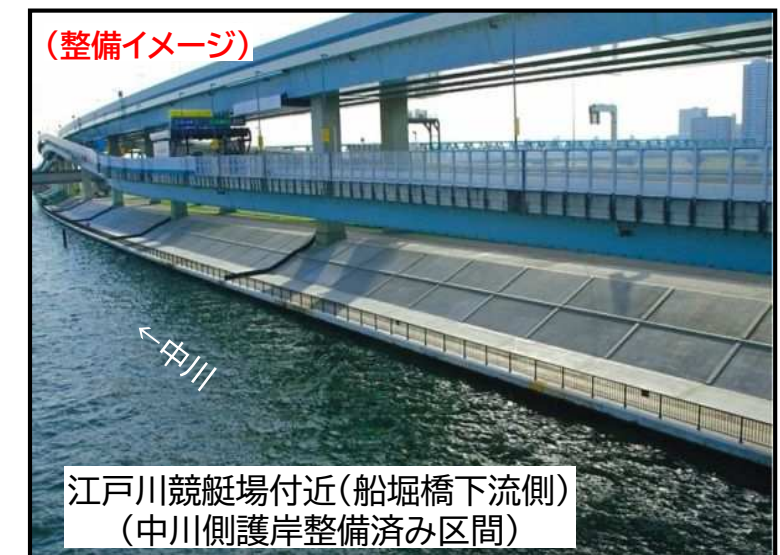
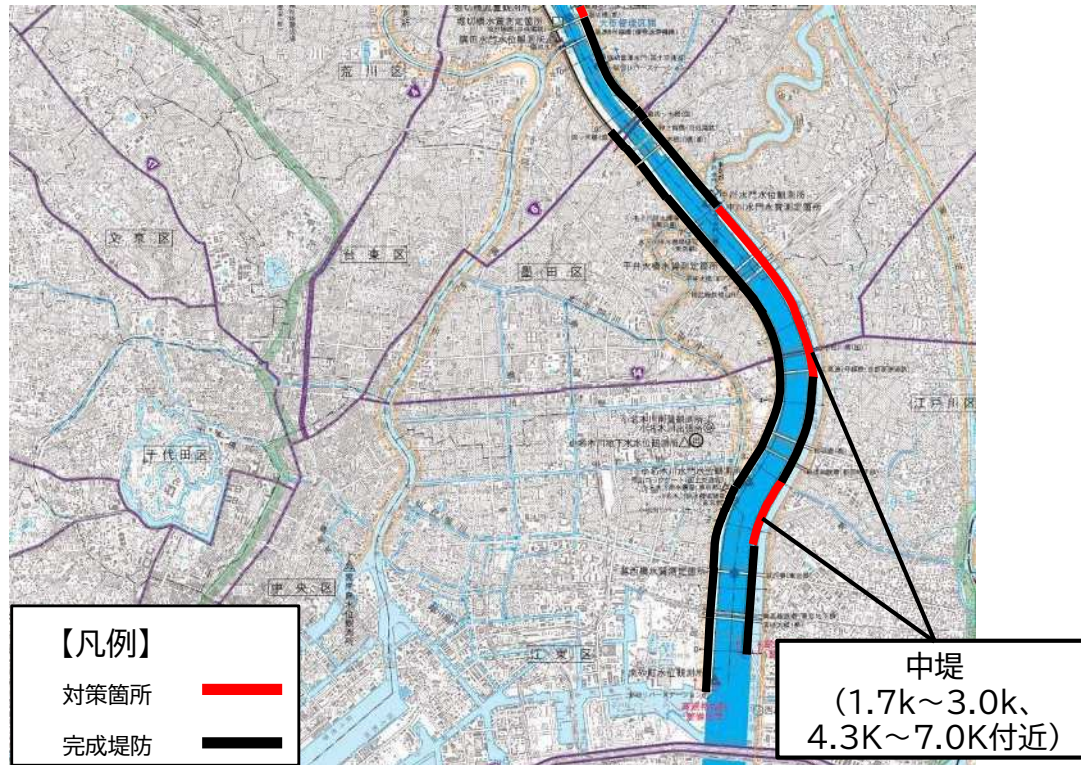


ヨシ原・干潟の代表的な
生き物であるヤマトシジミ



ヨシ原の保全・再生事例
(江戸川区小松川地先)

○ 荒川の河口から堀切橋までの区間において、高潮堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間等について、堤防のかさ上げ又は拡幅を実施します。

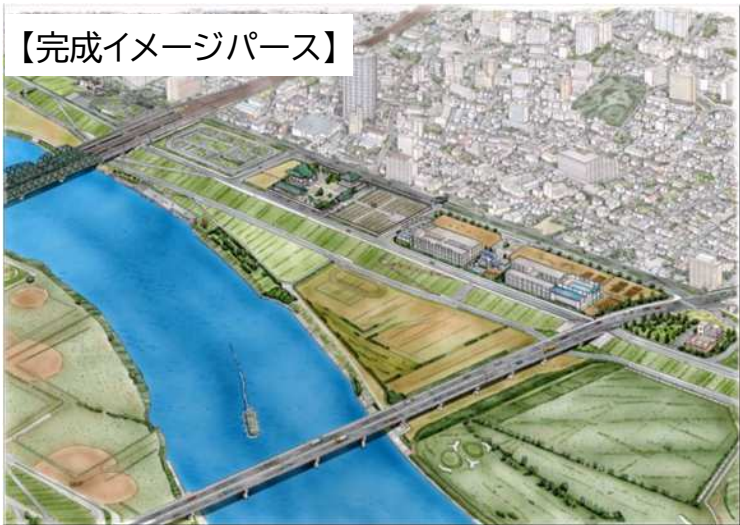


川口地区 高規格堤防

【位置図】



【完成イメージパース】



【位置】 埼玉県川口市

【計画諸元】

①工期： 平成7年度～

②面積： 12.7ha

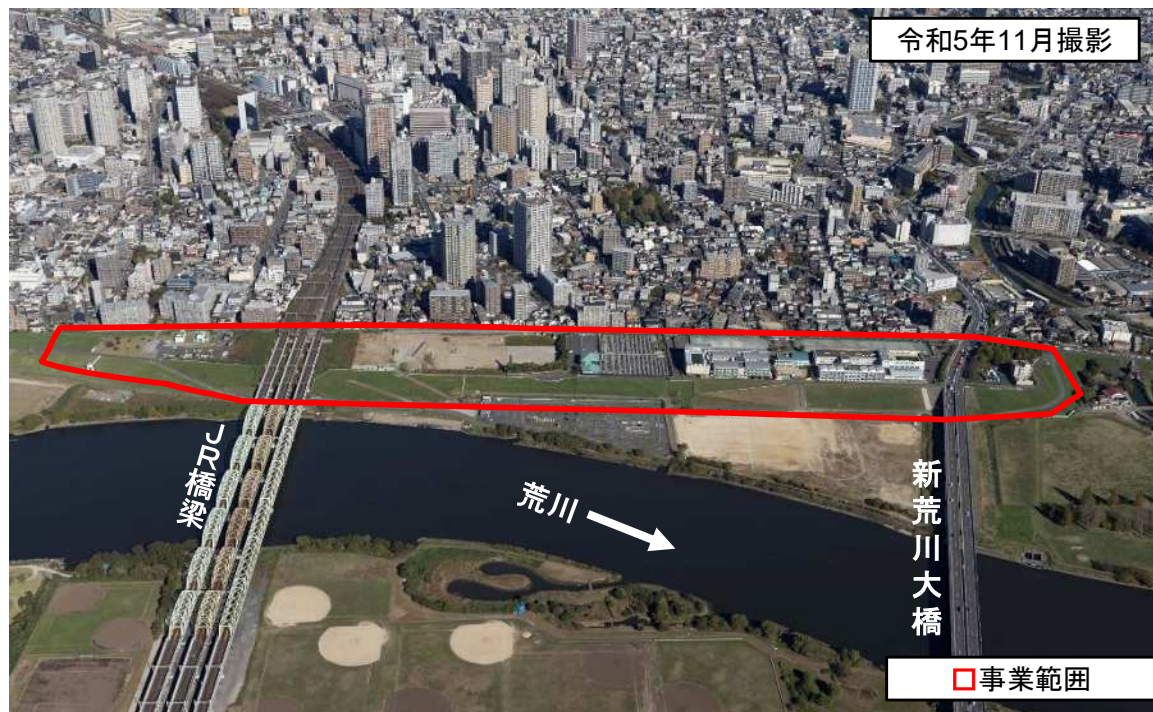
③延長： L=1,340m

【共同事業者】

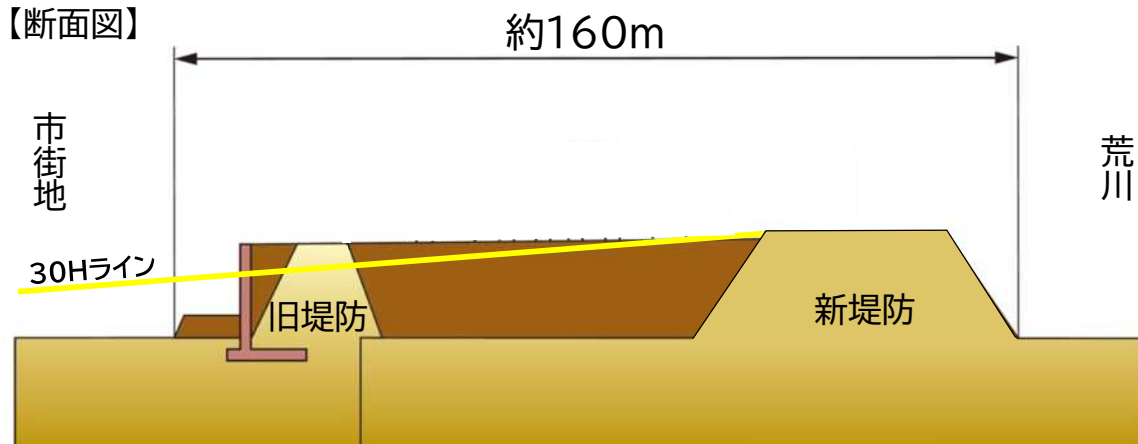
川口市、寺院、自動車教習所ほか

【事業の概要】

平成4年度に完成した荒川に面する新堤防と、市街地側にある旧堤防の間を盛土して一体化する高規格堤防整備事業として実施



【断面図】

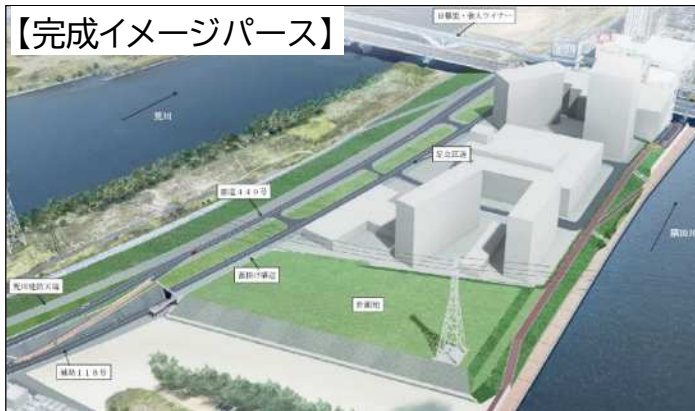


小台一丁目地区(Ⅱ期工区)高規格堤防

【位置図】



【完成イメージパース】



【事業の経緯】

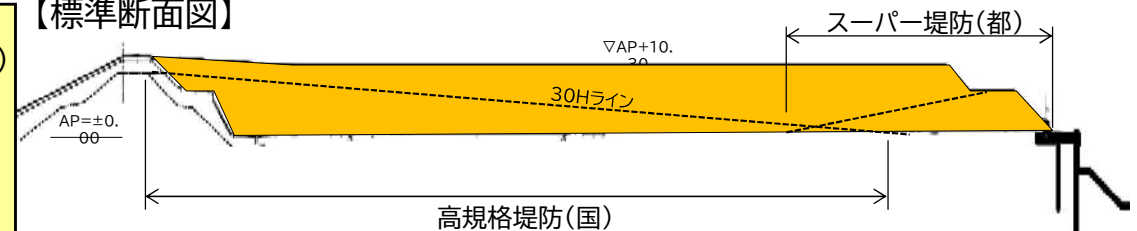
民間事業者の事業転換にあわせ、高規格堤防を整備



【事業内容】

- 事業箇所 : 東京都足立区小台一丁目地先(荒川右岸16.0km付近)
- 整備延長及び堤防幅 : 延長約90m、幅約220m
- 堤防面積 : 約1.7ha
- 工事概要 : 盛土工 1式、地盤改良 1式、周辺整備 1式
- 事業期間 : 平成30年度～令和8年度
- 共同事業者 : 東京都、民間事業者ほか

【標準断面図】

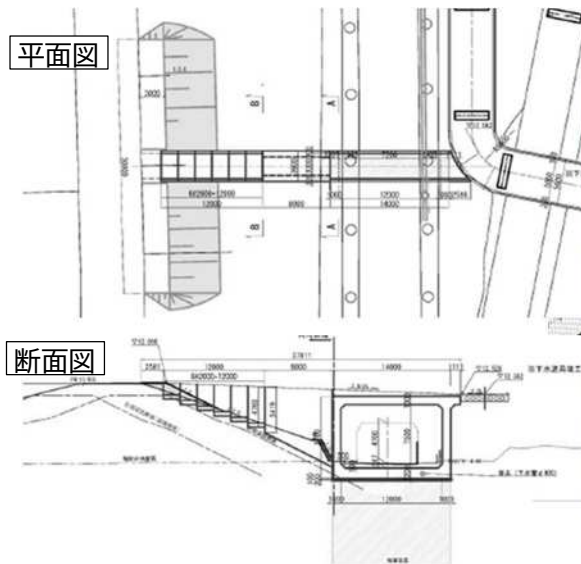


板橋区かわまちづくり 整備イメージ



<整備イメージ(連絡通路、階段)>

<利活用イメージ>



3次元イメージ図



河川空間における賑わい(板橋Cityマラソン)



キッチンカー

レンタルサイクル